

2026年5月の振り返り&今後のポイント

YMfg | ワイエムアセットマネジメント

商号等 ワイエムアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第44号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会

- 本資料は、情報提供を目的としてワイエムアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を推奨・勧誘するものではありません。
- 本資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 本資料に掲載されている当社の意見ならびに予測は資料作成時点のものであり、予告なしに変更することがあります。また、本資料は当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。本資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを示唆あるいは保証するものではありません。
- 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。

2026年5月の振り返り

AI関連需要への期待が株式市場を下支え

市場	変動要因 等
債券（金利）	<p><u>米国債券は下落（金利は上昇）</u> 月前半は、原油価格の高止まりを背景にインフレ再燃への警戒が強まり、FRB（連邦準備制度理事会）の利下げ期待が後退したことで、米長期金利は上昇しました。月後半は、中東情勢の緊張緩和期待から原油価格が下落したことを受け、金利は上昇幅を縮小しました。</p> <p><u>国内債券は下落（金利は上昇）</u> 日銀による利上げ観測が続いたことに加え、財政リスクも意識され、国内長期金利は上昇しました。</p>
株式	<p><u>米国株式市場は上昇</u> AI（人工知能）投資が続くとの期待に加え、ハイテク企業の決算がAI需要の強さを裏付けたことが支えとなりました。月後半には中東情勢の緊張緩和期待も加わり、原油高や金利上昇への警戒が和らぎました。</p> <p><u>国内株式市場は上昇</u> 米国のAI関連株高が半導体や電子部品関連に波及したほか、円安基調が輸出企業の採算改善期待を支えました。月後半の中東情勢の緊張緩和期待も、投資家心理の改善につながりました。</p>
リート	<p><u>海外リートは横ばい</u> 米長期金利の上昇により、利回り面での相対的な魅力は低下しましたが、月後半の金利低下やリスク選好の改善が下支えとなりました。</p> <p><u>国内リートは下落</u> 国内金利の上昇によって分配利回りの相対的な魅力が低下したことに加え、株式市場に資金が向かいやすかったことも重しとなりました。</p>
為替	<p><u>為替相場は円安ドル高</u> 為替介入への警戒から円高に振れる場面もありましたが、円高の動きは限定的でした。米金利の高止まりに加え、原油高やホルムズ海峡をめぐる不透明感が、エネルギー輸入国である日本の交易条件悪化を意識させ、円売り圧力につながりました。</p>

今後のポイント

◎日米欧の金融政策の行方

- 米国では、ウォーシュFRB議長のもとで初めてとなるFOMC（連邦公開市場委員会）が6月16～17日に予定されており、**新体制のもとでのような政策運営方針が示されるかに注目**が集まります。
- 足元では、原油高などを背景にインフレ再燃への警戒が強まっています。加えて、米国では労働市場の底堅さも改めて意識されつつあります。4月のJOLTS求人件数が急増し、失業者数に対する求人件数の比率は再び1倍を上回りました。これは、労働需給が再び引き締まり、**賃金上昇圧力が高まる可能性を示唆**しています。
- 今回のFOMCでは、**ウォーシュ議長がインフレリスクをどう評価しているのかが重要**になります。仮にインフレ圧力が一段と強まり、FRBの政策姿勢がよりタカ派に傾く場合には、米長期金利の上昇を通じて、米国株式市場の調整リスクが高まりやすいと考えられます。
- **日本や欧州においても、6月の利上げ観測**が強まっています。市場は6月に日銀の追加利上げをほぼ織り込んでおり、今後の追加利上げの時期やペースに市場の関心が移っています。一方、欧州でも、エネルギー価格の上昇やサービスインフレの根強さを背景に、ECB（欧州中央銀行）が6月に利上げに踏み切る可能性が意識されています。

◎スペースXのIPO

- スペースXのIPO（新規株式公開）は、単なる大型上場にとどまらず、**宇宙、衛星通信、AI関連インフラ**といった成長テーマへの関心が、どの程度維持されているのかを確認する機会になります。
- また、スペースXに続き、オープンAIやアンソロピックなどのAI関連企業の大型IPOが控えています。
- こうした企業が上場を通じて**調達した資金をAI関連の設備投資や事業拡大に振り向けるとの期待**が、AI関連株の支援材料になっている可能性があります。
- そのため、スペースXのIPOに対する投資家需要が強ければ、AI・宇宙・通信インフラ関連の成長期待が維持されているとの見方につながりやすい一方、需要が想定を下回れば、成長テーマ全般への期待剥落を意識させる可能性があります。

◎米国株式市場のバリュエーション

- 米国株式市場では、バリュエーションへの警戒も重要な論点です。特に注目されるのは、**米国株式市場の益利回りと米10年債利回りの差**です。この差は、株式の期待収益率と安全資産である米国債利回りを比較する目安として使われますが、足元ではゼロ近辺まで低下しており、債券に対する株式の相対的な上乗せ利回りはかなり小さくなっています。
- これは、株価が企業利益に対して高い水準まで買われている一方、米長期金利も高止まりしていることを示しています。
- AI・半導体関連への期待が強い間は、高いバリュエーションがすぐに相場の重しになるとは限りません。しかし、**金利が一段と上昇したり、企業業績への期待が下振れしたりする場合には、割高感が意識されやすくなります。**

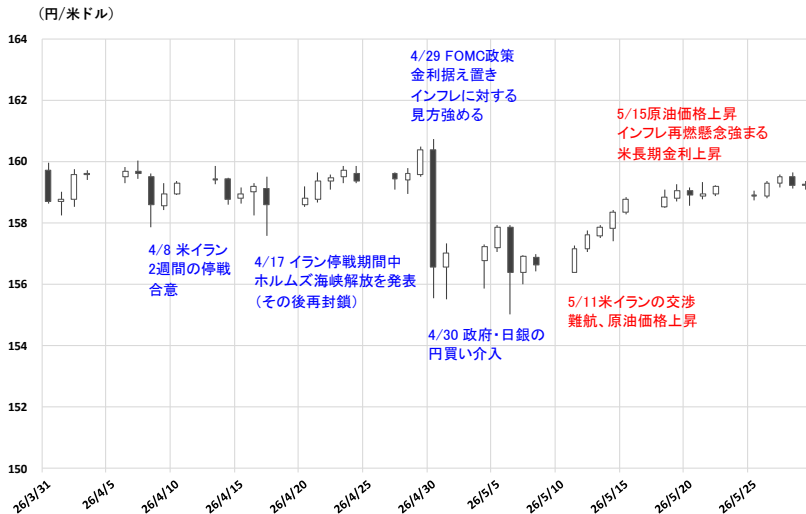
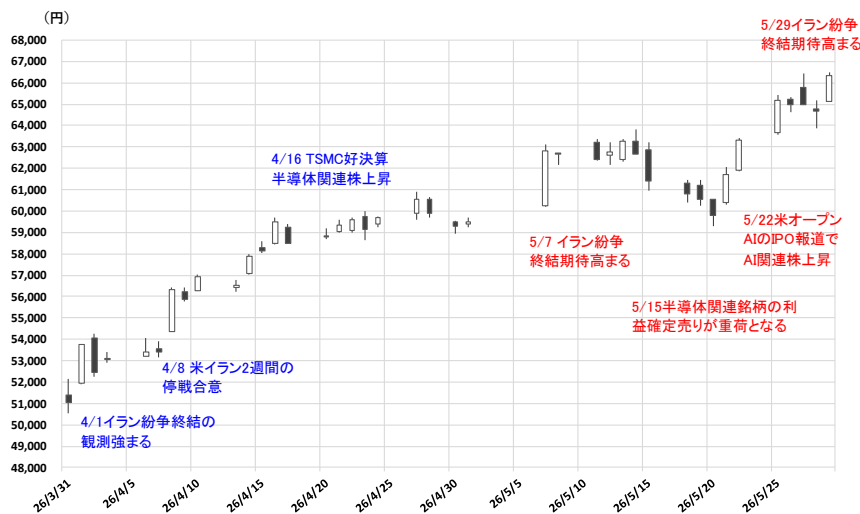
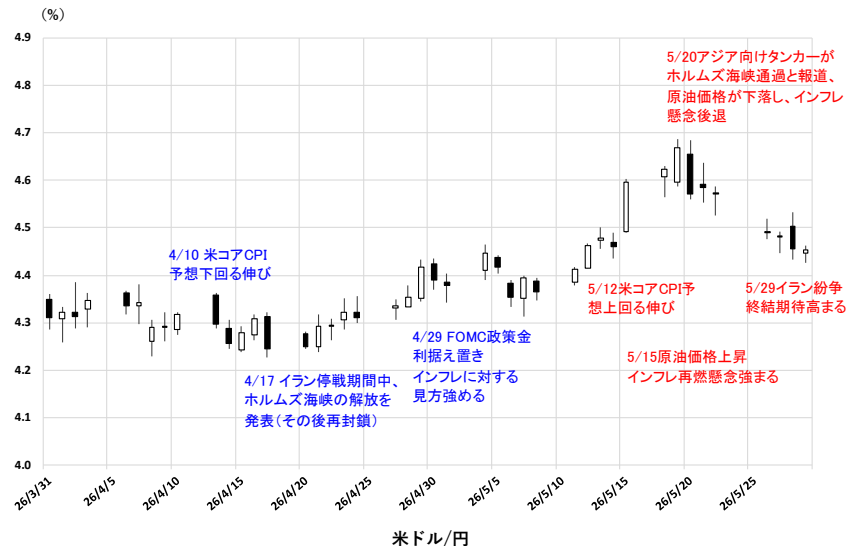
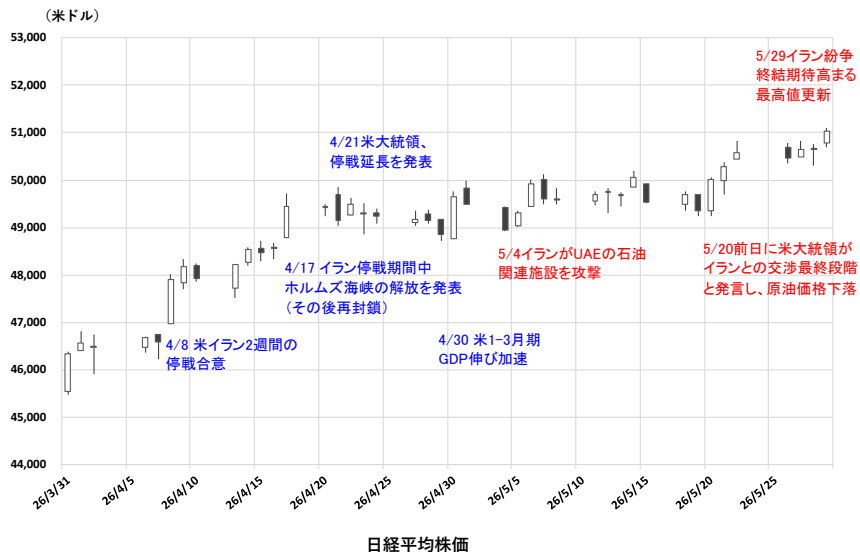
主な相場変動要因

(2026年3月末～ 2026年5月末)

【相場変動要因】

NYダウ

米国債10年利回り



(出所) LSEGよりワイエムアセットマネジメント作成